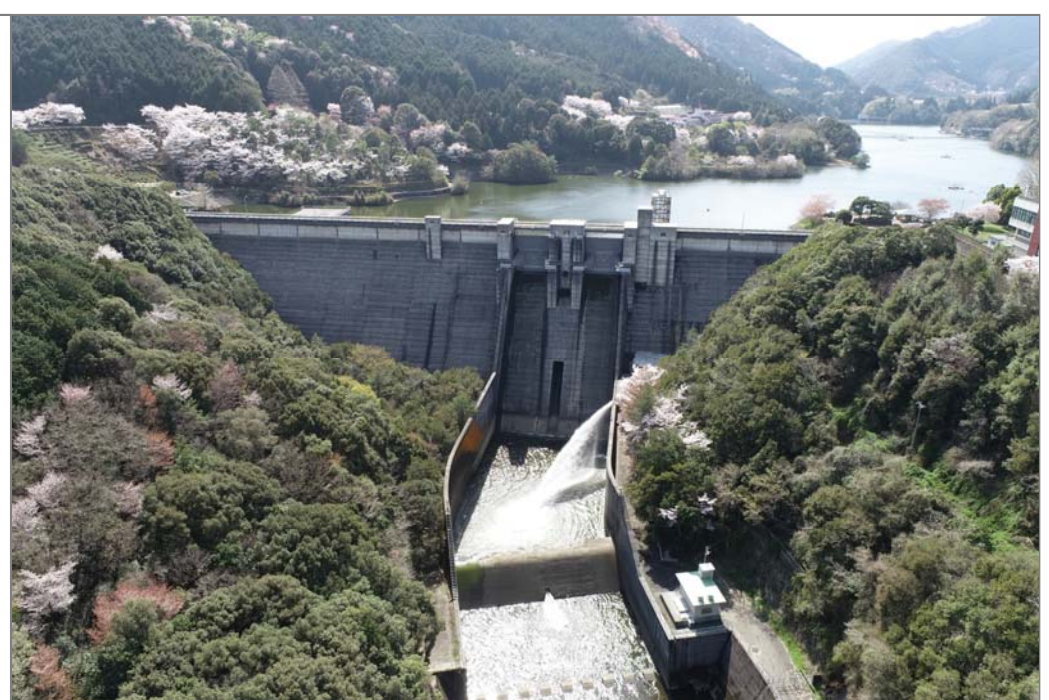
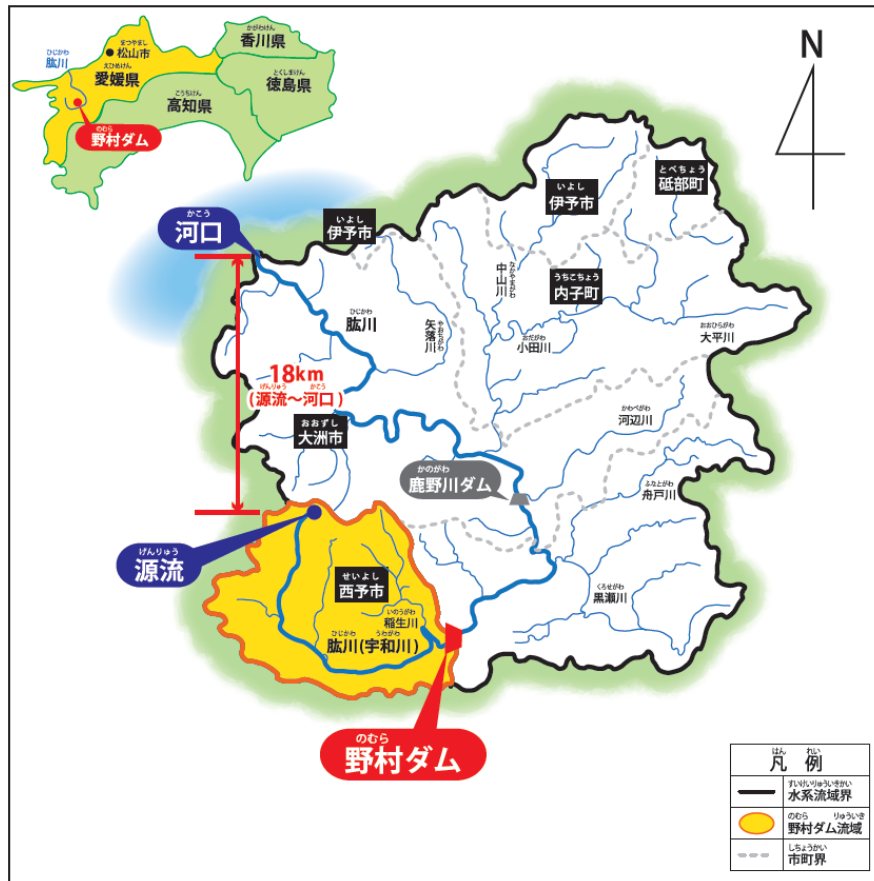


《野村ダムの位置図と流域図》



野村ダム堰堤改良事業

《野村ダムの諸元》

- ダムの位置 : 愛媛県西予市野村町野村
- 堤高(ダムの高さ) : 60m
- 堤頂長(ダムの長さ) : 300m
- 流域面積 : 168km²
- 総貯水容量 : 1,600万m³
- 有効貯水容量 : 1,270万m³
- 目的 : 洪水調節、かんがい用水
- 目 的 : 洪水調節、かんがい用水
- 水道用水
- ダム完成 : 昭和57年3月

国土交通省四国地方整備局
 肱川ダム統合管理事務所

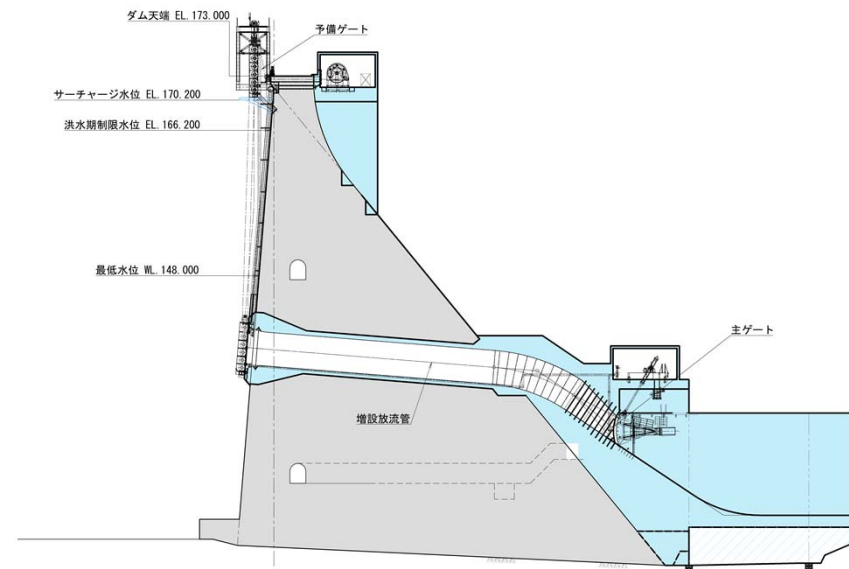
〒797-1212
 愛媛県西予市野村町野村8-153-1
 TEL:0894-72-1211

肱川ダム統合管理事務所
 ホームページ

<https://www.skr.mlit.go.jp/hijikawadam/>

国土交通省
 川の防災情報リアルタイム

<https://www.river.go.jp/>



国土交通省四国地方整備局
 肱川ダム統合管理事務所

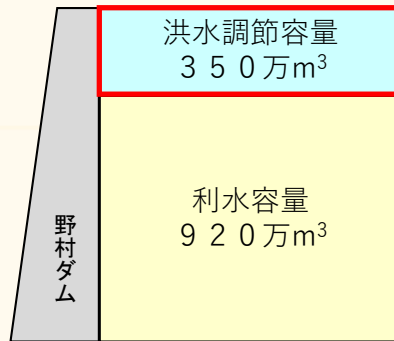
《野村ダム施設改良工事の概要》



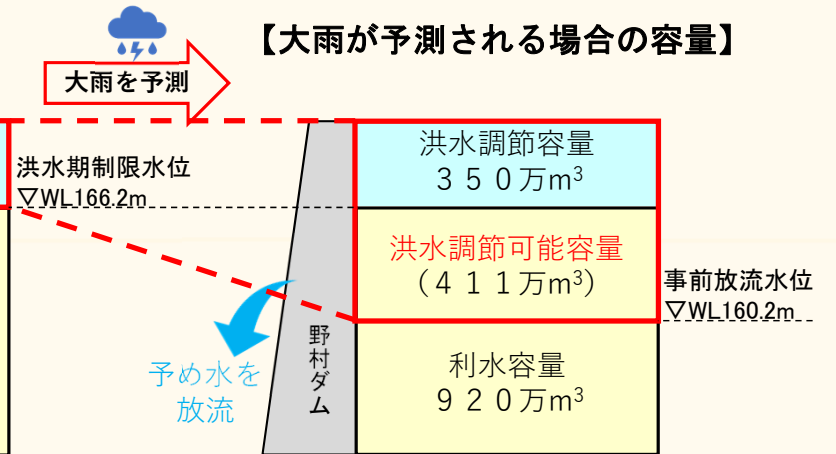
- 目的 洪水調節
- 工期 平成30年7月豪雨後概ね10年程度の予定

野村ダムでは、事前放流により確保した容量を効率的に活用するために、堤体に放流設備を増設します。これにより、平成30年7月豪雨と同規模の洪水を河川改修と相まって、肱川の氾濫を防ぐことができます。

【通常時の容量】



【大雨が予測される場合の容量】



1. 容量の有効利用

- 大雨を予測すると、予め水を放流して貯水位を下げ、洪水に備えます（事前放流）。
- 利水容量の一部を一時的に洪水を貯留する容量に用いることで、ダムを大きくしなくても、ダムに貯められる水の量をこれまで以上に増やすことができます。

※この図はイメージであり、貯水位と放流設備の高さの関係は実際とは異なります。平成30年7月洪水と同規模の洪水を想定したイメージ図。

2. 放流設備の増設

- 事前放流を行って貯水位が低くなると、現在の放流設備では洪水初期に低い水位を維持することができません。
- 放流設備を増やして、事前放流により低下させた低い貯水位を維持します。
- 容量がすぐに満杯にならないように放流量を調節しながら洪水を貯めることができます。

